

ボブスレー・リュージュパーク の在り方の検討について

長野市文化スポーツ振興部
スポーツ課

1 背景

2

<施設概要>

- ・竣工 平成8年3月31日
- ・供用 平成8年12月1日
- ・総事業費 約101億円(工事費95億円、用地費6億円)
(建設負担割合…国1/2 県1/4 市1/4)
(国庫補助31.7億円、起債償還済み)
- ・敷地面積 18万㎡ ・コース延長 1,700m

<平成26年度包括外部監査(公共施設の有効活用と管理について)>

- ・方向性に関する意見(抜粋)

「今後老朽化も進み、維持更新費用が発生することから長野市の負担において当該施設を維持していくことは困難と判断される。(中略)市民に利用されていない施設を市民の税金により負担することは特に考慮すべき事項である。(中略)施設を今後も継続するケース、完全に廃止・取壊しするケース、廃止するケース、一時的に休止するケース等の選択肢の中、補助金返還も含めた市の負担がどうなるのかのシミュレーションを早急を実施し、方向性の検討をすべきである。」

<長野市公共施設マネジメント指針>

「利用者が極端に少なく、維持管理費も多額であり、また、現在のNTCの指定期間が2018年韓国平昌冬季五輪までとされている。その後の対応等、施設の在り方について早急に検討する。」

(1)維持管理費

- ・年間 約2.2億円(管理運営費2億円、改修費0.2億円)
⇒国からNTCの強化事業委託料として約1億円の収入
(NTC指定はH29年度まで、次の4年間の指定はH30年度に募集あり)

(2)老朽化

- ・建設から20年が経過し、老朽箇所の改修や設備更新などが必要
(木製バリア、冷凍設備、照明、電光表示、タイミングシステム、擁壁など)
⇒国からの支援なし

(3)競技面

- ・競技人口は全国で130人～150人
- ・施設利用(H26年度、延べ人数):選手3,174名、見学等3,299人、計6,473人
- ・平昌に常設の施設が完成

(4)その他

- ・国からは、国が施設を運営する考えはないとの返答

3 ケース別シミュレーション(H30年度以降)

案	形態	内 容	市負担(10年)	※NTCの収入 を見込む場合
			市負担(20年)	
1	継 続	・現状どおり継続 (管理運営及び施設改修等)	約31.2億円	※約21.3億円
			約55.9億円	※約36.1億円
2	一部休止	・製氷を休止(夏期トレーニング可) ・アンモニア等は撤去 ・再整備により再開は可能	約 1.9億円	/
			約 3.0億円	
3	全面休止	・施設を全面的に休止 ・アンモニア等は撤去 ・再整備により再開は可能	約 0.8億円	
			約 0.8億円	
4	廃 止	・施設を解体	約13.5億円	
			約13.5億円	

その他の可能性

5	転 用	・メモリアル公園、市民の森に転用	管理形態により 上記2～4と同様	/
6	無償貸付	・競技団体に貸付(夏期トレーニング)	上記3と同様	

◆建設時の国の補助金は、法の運用緩和によりいずれも返還不要(4～6は手続必要)

- 2018年平昌五輪までNTC競技別強化拠点として活用
- その後の在り方について検討

◎公共施設適正化検討委員会に、施設の今後の在り方について意見を聞く
◎随時、市議会、競技団体、地元など関係者の意見を聞く



◎今後の市のスポーツ振興の方向性を考慮
◎地元の活性化を考慮



◎今年度末～次年度の早いうちに方向性を決定

長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)

施設維持継続に関する要望書

長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル) 施設維持継続に関する要望

長野市長 加藤久雄様

寒冷の砌、貴職におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃は当浅川地区を含め中山間地域に対し格段のご理解とご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

長野市は1998年に長野冬季オリンピック・パラリンピック大会、2005年にはスペシャルオリンピック大会を開催、世界で唯一のこれら3大会の開催都市となり、以後ウィンタースポーツの世界的拠点として「ナガノ」の名を国内外に高めることになりました。

冬季オリンピック施設として建設された長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)は、冬季オリンピック開催以来我が国のウィンタースポーツの競技力向上のため、選手強化や将来を担うジュニア育成、競技普及におけるアジアの中核的施設としてワールドカップ大会を開催するなど大きく貢献してきました。

こうした中、浅川地元住民100名余が中心となって「浅川スパイラル友の会」を組織し、冬季オリンピック開催以来20年近くにわたり、ボランティアとしてコースの草刈りや清掃、ソリの運搬など施設運営に協力するとともに、小学生を対象にしたリュージュ教室などを開催し、選手育成強化と施設の存続を願い懸命に活動をしてまいりました。

しかしながら、近年、地方自治体の財政運営も極めて厳しい状況の中、長野市では現在、「公共施設マネジメント指針」に基づきボブスレー・リュージュパークの在り方について見直しを検討されています。申すまでもなくスパイラルは冬季オリンピックなどのスポーツ文化遺産であるだけでなく、施設の希少性と選手育成など、今後のオリンピックほか国際競技大会の招致のためにも極めて重要な施設であります。

つきましては、長年にわたるスパイラル施設に係る地域住民活動の努力と願いを無にすることなく、国・県始め関係機関に施設の維持存続とナショナルトレーニングセンター指定の継続や財源手当てを含め最大限の努力を傾注いただくとともに、その方向付けに当たっては地元住民の意見要望をきめ細かく聴取し、また検討内容、経過については丁寧な説明をお願いいたく要望いたします。

平成 28 年 12 月 20 日

浅川地区住民自治協議会
会 長 穂 澤 正 夫
浅川スパイラル友の会
会 長 拝 野 忠 昭

平成28年12月27日

長野市長 加藤 久雄 様

長野市ボブスレー・リュージュパークの
ナショナルトレーニングセンター
継続要望書

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
会長 北野 貴裕

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟は日本国内のボブスレー・リュージュ・スケルトンの各競技を総括し代表する団体として、競技を通してスポーツを振興し、国民の体力と競技力の向上及びスポーツ精神の普及を目的として活動をしています。

『要 望』

長野市ボブスレー・リュージュパーク(以下スパイラル)をナショナルトレーニングセンター(以下NTC)として2022年北京冬季オリンピックまで継続することを要望します。

1. スパイラルは冬季オリンピック種目そり三競技の国内唯一のNTCであり、ここを拠点に普及振興・競技者の強化および育成・日本選手権はじめ各大会開催等を実施しています。

海外遠征派遣の強化指定選手等がこれまでホームトラックとしてスパイラルにおいて、競技力を積み上げ、オリンピック・世界選手権・W杯・多くの国際大会で活躍している実績があります。

2. 札幌市が二度目の冬季オリンピック開催地の招致を目指しており、国内競技者の中長期的な育成強化のためにスパイラルのNTC指定は必須であります。冬季オリンピック自国開催の可能性がある中で、NTC指定がなくなる事態は何としても避けなければなりません。

3. スパイラルは小・中・高校生を初めとする多くの青少年がそり競技を目指して最初に滑走体験をする施設であります。国内の各競技連盟(北海道、宮城、長野、大阪)では体験会や競技会を開催し、鋭意そり競技の普及・振興を行っております。こうした活動を今後とも継続実施していくことが、重要であります。

以上のような理由から、スパイラルのNTC指定の継続を切望致します。

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
会 長 北 野 貴 裕

長野市ボブスレー・リュージュパークに関する要望

スポーツ庁長官 鈴木大地 様

本市では、長野冬季オリンピックの競技施設の一つである「長野市ボブスレー・リュージュパーク」について、わが国唯一の競技施設として、また、アジアの競技拠点として、国のご支援もいただきながら今日まで管理運営してまいりました。

施設は競技専用であることから利用者が限られ、維持管理費も多額であり、建設後 20 年が経過して老朽化が進んでいることなどから、市では現在、関係者の意見を聞きながら当該施設の今後の在り方について検討しているところです。

つきましては、今後の施設の存続に向け、施設維持の財源などを含めた方策について、国の特段のご配慮ご協力を賜りますよう要望申し上げます。

平成 29 年 1 月 13 日

長野市長 加藤久雄

ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）の活用等について

1 ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点について

(1) NTC事業について

- ・東京西が丘の味の素ナショナルトレーニングセンターのほか、冬季競技、海洋水辺系競技、屋外系競技などについては、全国 28 箇所の施設が競技別強化拠点に指定されている。（長野市では、スピードスケートでエムウェーブ、そり競技でスパイラルの指定あり）
- ・JOC加盟競技団体の国際競技力向上に資するトレーニング環境を提供する。

(2) スパイラルの指定の履歴

- ・初回 平成 19 年 5 月 18 日～3 年間（バンクーバー五輪まで）
- ・2回目 平成 22 年 6 月 1 日～4 年間（ソチ五輪まで）
- ・3回目 平成 26 年 8 月 26 日～4 年間（平昌五輪まで）

(3) NTC事業内容

- ・トップアスリートの利用の環境整備、トレーニング機器等の導入
- ・スポーツ医、科学、情報スタッフの配置、マネジメントスタッフの配置
- ・関係機関との調整、強化対象選手の利用調整、情報の収集発信

2 大会開催（平成 27 年度）

（種別 B：ボブスレー L：リュージュ S：スケルトン）

国際大会

大会期間	種別	大会名	参加者数
27. 12. 24～27	L	第 1 回 アジアリュージュ選手権大会	32

国内大会

大会期間	種別	大会名	参加者数
27. 9. 20	S	2015 全日本プッシュスケルトン選手権大会	32
27. 9. 20	B	2015 全日本プッシュボブスレー選手権大会	23
27. 12. 11～12	S	2015/2016 全日本スケルトン選手権大会（予選）	35
27. 12. 18～20	B	2015/2016 全日本ボブスレー選手権大会	50
27. 12. 24～26	L	第 49 回 全日本リュージュ選手権大会	13
27. 12. 24～26	L	第 23 回 JOCジュニアオリンピックカップ競技会	7
27. 12. 25～27	S	2015/2016 全日本スケルトン選手権大会（本選）	35
28. 1. 23～24	B・L・S	第 7 回 JBLSFチャレンジカップ大会	9
28. 1. 23～24	B・S	第 23 回 JOCジュニアオリンピックカップ競技会	19

3 日本選手の国際大会での主な成績（2015～2016 シーズン）

（1）ボブスレー競技

押切麻李亜：IBSF ランキング 30 位、EC 最高成績 7 位

本間 南：IBSF ランキング 35 位、EC 最高成績 9 位

浅野晃佑：IBSF ランキング 82 位、EC 最高成績 27 位

黒岩俊喜：IBSF ランキング 85 位、EC 最高成績 35 位

※ECはヨーロッパカップの略

（2）スケルトン競技（主要な選手）

高橋選手：IBSF ランキング 21 位、世界選手権 20 位、WC 最高成績 13 位

笹原選手：IBSF ランキング 36 位、ICC 最高成績 7 位

宮島選手：IBSF ランキング 55 位、NAC 最高成績 2 位、世界 JR 選手権 16 位

小口選手：IBSF ランキング 22 位、世界選手権 22 位、WC 最高成績 13 位

小室選手：IBSF ランキング 41 位、ICC 最高成績 12 位

※ICC はインターコンチネンタルカップの略

※NAC はノースアメリカカップの略

（3）リュージュ競技

金山英勢：WC 最高成績 22 位、世界選手権 32 位（2 本目進出できず）

4 そり体験事業

（1）市内小中学校を対象としたそり体験教室

（市事業としてバス代の一部を補助）

・平成 28 年 1 月 浅川小学校 3 年生 2 クラス 53 名

・平成 28 年 1 月 鍋屋田小学校 3 年生 2 クラス 38 名

5 閣議了解（平成元年 6 月 6 日）

オリンピック冬季競技大会の開催は、国際親善、スポーツの振興等に大きな意義を有するものであり、平成 10 年（1998 年）第 18 回オリンピック冬季競技大会を長野市が招請することを了承する。

なお、政府としては、現在、財政再建が引き続き緊要な課題であることにかんがみ、簡素を旨とし、別紙に掲げる方針により対処するものとする。

<別紙>

1 競技施設については既存施設の改善・活用を図り、施設の新設に当たっては適正な規模の確保にとどめるものとし、主要施設の整備に要する経費に占める国の負担の割合は 2 分の 1 以内とすること。

2 新設する施設の将来にわたる管理・運営については地元の責任と負担を主体として行われるものとする。

3～5 省略

平成27年度 オリンピック施設管理運営費 決算額一覧表

(単位:千円)

	ビッグハット	エムウェーブ	ホワイトリング	アケアウイング	南長野運動公園	スパイラル	合 計
<歳出(管理運営+改修費)>							
合 計	161,905	361,976	79,803	245,409	221,656	211,823	1,282,572
<歳入(NTC委託料を含む)>							
合 計	37	100,802	111	1,006	8,681	109,220	219,857
A <歳出-歳入>							
一般財源負担分 (通常管理費分)	161,868	261,174	79,692	244,403	212,975	102,603	1,062,715

※オリンピックスタジアムは、「南長野運動公園」に含まれる。(体育館、プール、テニスコート、公園管理費等を含む金額)(総合球戯場は除く)
※スパイラルを除く各施設の利用料金は、各施設の指定管理者の収入となる。

(単位:人)

	ビッグハット	エムウェーブ	ホワイトリング	アケアウイング	南長野運動公園	スパイラル	合 計
B 利用者数	268,778	446,298	178,146	130,467	352,032	6,339	1,382,060

※南長野運動公園の利用者は、野球場、体育館、プール、テニスコートを含む(総合球戯場は除く)
オリンピックスタジアム単体の利用者は 101,516人

(単位:円)

A÷B	ビッグハット	エムウェーブ	ホワイトリング	アケアウイング	南長野運動公園	スパイラル	平均
利用者一人当たり 一般財源負担分	602	585	447	1,873	605	16,186	769

※小数点以下四捨五入

住民自治協議会向け 出前講座におけるスパイラルに対する意見等

平成27年9月から平成28年7月にかけて、市内全32地区で実施
 公共施設の現状と課題、マネジメントの基本方針など総論を説明、意見等をいただいたもの

期日	地区	参加人数	主な意見等（質問への回答）
10月16日(金)	第二地区 住民自治協議会 総務委員会	21人 (男19 女2)	<ul style="list-style-type: none"> ・犀野市民にスパイラルの受益者がいるとは思えない。早急に見直す(廃止)べきである ・地域公民館はマネジメントの対象か？(市有施設ではないので対象外である)
11月13日(金)	七二会地区 住民自治協議会 区長会	16人 (男16 女0)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の少ない施設を検討対象とした場合、中山間地域の活性化と相反するのではないか ・オリンピック施設、特にスパイラルや、平成の合併地区の数多くの施設にどれだけ経費がかかっているか、市民にしっかり説明すべきである。昭和41年合併の七二会地区には何も無い ・長野市芸術館を作るお金がありながら、各地区にある施設を減らすのは矛盾している。市有施設が多く財政負担が重いことはずっと前から分っていたはずである
12月3日(木)	安茂里地区 住民自治協議会 地区会長会	18人 (男17 女1)	<ul style="list-style-type: none"> ・総論には賛成だが、今後個別の施設について利用者の意見を聞けば、必ず反対意見が出る ・指針にはどれだけ強制力があるのか。今までの市長等は施設を作るのに熱心であったが、これからは変わらなければならない ・スパイラルは市だけで維持することはできないと思うので、国としての対応が必要ではないか ・小学校の修繕予算が無くて困っている。子どもが快適に学べるようにすべき ・市営住宅は古いものから、かなり空き家が出ているので対応を
12月17日(木)	戸隠地区 住民自治協議会 常任評議員会	35人 (男30 女5)	<ul style="list-style-type: none"> ・複合化等による転用で建設時の補助金の返還が生じないか？(施設ごとにケースバイケースであるが国も柔軟な対応になっている) ・複合施設化というが、小学校に不特定多数の者が入るとセキュリティの問題が生じるのでは？(セキュリティに充分配慮した、施設整備の先行事例が全国的に多数ある) ・スパイラルに対しては国等がより財政支援すべき。年間いくら経費が掛かっているのか？(減価償却など含めると年間約3億5千万円かかっている。なお、国からナショナルトレーニングセンター委託料として約9千万円の収入がある)
1月19日(火)	更北地区 住民自治協議会 区長会	26人 (男25 女1)	<ul style="list-style-type: none"> ・権堂再開発(イーストプラザ)など新たな施設が建設されているが、マネジメントの視点はあったのか？(マネジメント指針が策定される前から計画が検討されてきた施設である) ・スパイラル等オリンピック施設に多くのお金がかかっているのではないか